

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑭

私の家は、小山市でトマトを栽培している専業農家です。私は、小学生の時に父親の仕事場で簡単な作業を手伝ったことをきっかけに、農業に興味を持ちました。毎日、朝早く仕事場に行き、夜には土まみれになり帰ってくる姿や、夏はタオルを巻いて汗だくで作業をする父親がいつしか目標

校へ入学しました。栃木県農業大学校では、園芸経営学科野菜専攻に入学し、迷わずトマトを専攻、卒業論文の研究では品種比較をテーマに行うことに決めました。私は、「MKS-T109」、「りんか409」、「マイロック」を次世代型（高軒高）ハウスに8月に

「何事にもチャレンジ」 立派なトマト経営者になる！



になり、休日は少しでもトマト栽培を学ぶため手伝いをするようになりました。将来、立派な農業経営者を目指すため、高校は迷うことなく農業高校への進学を決めました。高校では野菜科のトマト専攻に入り、土壌作りから収穫まで一通り学ぶことができました。しかし、トマト栽培をある程度学んでいくと、まだ栽培の基礎しか学んでいないことを知り、もっと高度で高校では学べないような技術を学びたいと思い栃木県農業大学



（園芸経営学科・野菜専攻 小林 柁徳）

植え付け、生育調査や収量・品質調査を行い、同じ環境での品種の特徴をわかりやすくデータ化するため、課題に取り組んでいます。我が家は、昨年から法人化し、今年は大規模なハウスが建ちます。父親は今年を勝負年と決め、新しいチャレンジをしています。私も高校や大学校で学んだトマト栽培を我が家でも活かし、最初は父親の右腕、最終的には立派な農業経営者になれるよう日々努力し、何事にもチャレンジしていきます。

経営の多角化を目指して

私の家は酪農を営んでいます。私は実家に就農後、新しく和牛繁殖の部門を始めたいと考えています。その理由としては、複数の部門があった方が経営が安定すると

考えたからです。

そのために、私は今、栃木県農業大学校で畜産の基礎や、繁殖について学び、実習では様々な技術を学んでいます。農大で

は、乳牛と和牛をどちらも学ぶことができて、新しくなった「ドリーム牛舎」には、最新のICT技術が導入されています。入学した当初は様々な設備の扱い方がわからず、先輩方に教えてもらわないと作業ができませんでした。座学でも、農業に関する基礎知識や、牛や豚などの体のつくりや歴史など、覚える内容が多く、慣れるまで大変でした。

学校生活に慣れてきた今、我が家の経営改善に活かせる場所がないか、考えながら実習や勉強に励んでいます。自分の考えた案に先生から意見をもらったり、同じく農業を学んでいる同級生と共に助け合ったり、卒業後何をするのか語り合いながら将来に向けて充実した日々を送っています。

私は卒業後、すぐにでも和牛繁殖経営を始めたいと思っていますが、他の経営をもっと見てみたいので、まずは酪農ヘルパーに入り、見聞を広めながら経営を学ぼうと考えています。それまで、この農大で同級生と親睦を深め合いながら一所懸命学んでいきたいです。

(畜産経営学科 日原尚太)

